

「海の幸」生んだ家記念館に

明治期の画家青木繁が滞在し代表作「海の幸」を描いた千葉県館山市の小谷家住宅(市指定有形文化財)が、二年間の修復を終え、青木繁「海の幸」記念館として生まれ変わった。二十四日には開所式があり、建物の存続に協力したノーベル医学生理学賞受賞者の大村智さん(80)も訪れた。一般公開は二十九日から。

(北浜修)

千葉・小谷家住宅 修復

小谷家は江戸期から戦前まで、房総半島南端の同市布良の有力な漁家だった。青木は一九〇四(明治三十七)年夏、知人らと二月ほど滞在。海岸を行く漁師らを描いた「海の幸」(石橋美術館(福岡県久留米市)所蔵)は、日本絵画史の傑作とされる。住宅は平屋で延べ床約百

平方メートル。築約百二十年で老朽化が進んでいた。市と現在の当主小谷福哲さん(67)、地元の有志、全国の美術家がつくるNPO法人青木繁「海の幸」会(川崎市)が存続へ動いてきた。大村さんは美術に造詣が深く、同NPO法人の理事も務める。個人でも、ふるさと納税で計五百万円を

青木繁 2ヵ月滞在し傑作



青木繁が滞在した部屋で「海の幸」の複製面を見る大村智さんと現当主の小谷福哲さん(千葉県館山市)

市へ寄付するなど保存活動に熱心に協力してきた。

一般公開は五月八日まで毎日、その後は土日のみ。午前十時～午後四時。入館料二百円(小中高生は百円)。問い合わせは、NPO法人安房文化遺産フォーラム(館山市) 電話0470(22)8271へ。